

岩松寺の歴史と文化



○袋井市指定文化財 聖観世音菩薩像
岩松寺の本尊で平安時代末期(12世紀)の作 檜材を用い頭と胴は一木材からなるが、背中と腰下が別材で作られ中は空洞。古く火災に遭い、全体に水がかかった痕跡がみられる。60年に一度御開帳の秘仏で2014年が御開帳年にあたる。像高95cm

岩松寺の歴史

岩松寺は浅羽地区唯一の真言宗寺院で、創建年代や成立事情を物語る史料は残されていないが、浅羽荘の荘園守護所として平安時代末期(12世紀)には成立したと考えられ、現在も当時の聖観世音菩薩立像が寺院の本尊、不動明王二童子像が客殿の本尊として祀られ、当時は地名から「篠ヶ谷山寺」と呼ばれていたと推測される。

今に繋がる篠ヶ谷山岩松寺(しのがやさん がんしょうじ)という山号・寺号を名乗る真言寺院が成立するのは江戸時代初頭のことで、慶長9年(1604)には検地が実施されて寺領が確定し、経済基盤が整い、慶安元年(1648)に24石の朱印地が与えられ、寺領内には三軒の門前百姓が居住していた。当時は観音堂を中心に山内には六大坊・智積院・密蔵院・明王院・地藏院の5院が所在し、将軍家と国家安泰を祈る祈禱寺院であった。

寛文年間(1661~72)の火災により寺房や書類等が焼失したことから、それ以前のことは殆ど窺うことはできないが元禄年間になると復興する。山内に唯一残った明王院は元禄14年(1701)には寺院鎮守として白山宮を勧請し、同16年には高野山内千手院谷の学侶寺であった理性院の末寺となり、篠ヶ谷山の山号、岩松寺の寺号認可を受け、高野山末の真言宗寺院が成立する。

江戸時代中・後期の岩松寺には修験道の開祖 役行者を祀る行者堂があり、浅羽地域の行者講の拠点となっていたり、大工棟梁に上棟式の次第を伝授し、聖徳太子講の絵講を授与するなど、多様な活動を行っていた。

仏像・神像・尊像

岩松寺には平安時代末期の仏像2軀、江戸時代の仏像4軀・尊像2軀・神像1軀が現存している。特に平安時代末期の聖観世音菩薩像と不動明王二童子像は、平安時代後期には成立したと考えられている浅羽荘(勸学院領・殿下渡領)の荘園守護所として当寺が成立したことを窺わせる重要な資料である。江戸時代のものには、山内の年中行事に関わるもの、壇越の寄進によるものや宇賀神像のように特殊な事例があり、多様な活動の一端を垣間見させてくれる。



◎袋井市指定文化財 不動明王二童子像

客殿の本尊で、聖観世音菩薩像と同じ平安時代末(12世紀)の作。不動明王像は頭部に蓮華を頂き、十九観に基づく天地眼や口元の表現が行われている。像高 132 cm。 向かって右側の脇童子は矜羯羅童子(こんがらどうじ) 左側は制多迦童子(せいたかどうじ)で、前者が穏和で静的な表現に対し、後者は怒りの表情を見せ動きもあり、対象的な表現となっている。江戸時代後期に彩色を中心とした補修が行われている。



不動明王像

延宝6年(1678)に檀那の篠ヶ谷村 樽松氏が両親を供養するために寄進。 像高 45.5 cm



火焰光背裏面の墨書銘



地藏菩薩像

山内塔頭の地藏院に祀られていた可能性があり、温和な表情の半跏像である。 像高 35 cm

神像 岩松寺寺院鎮守の一つである稲荷社は、真言系修験寺院 愛染寺(伏見稲荷)系の宇賀神像が祀られた希少な事例で特筆される。



外観

磐座上に宝珠を載せた形状をしている。



宇賀神像正面

宇賀神像はとぐるを巻く蛇軀に老翁の頭が載る独特の姿で表現される。



宇賀神像側面 像高 8.5 cm

年中行事と諸尊像

山内の年中行事に合わせた、それぞれの礼拝対象となる諸尊像が存在している。

2月の初午(はつうま)は塔頭明王院鎮守の稲荷神(宇賀神)を祀る。3月21日は弘法大師の命日で御影供(みえく)の法要が行われる。

4月8日の釈迦誕生会は卯月八日(うづきようか)と言われ、山岳修験霊山の山開きの日でもある。この日には岩松寺行者堂の厨子扉が開かれ「御山開き」が行われた。

6月1日は奥之院の浅間社(毘沙門天)に礼拝し、早朝より愛染明王厨子扉を開いて御夢想灸(ごむそうきゅう)を点じ、遠方からの参詣者で賑わいをみせた。



愛染明王像

大師秘伝の御夢想灸の守護神として祀る



弘法大師像

真言宗の祖師像。彼岸入りには団子をお供え、3月21日の正月御影供には精進膳が献じられる。像高 40.7 cm

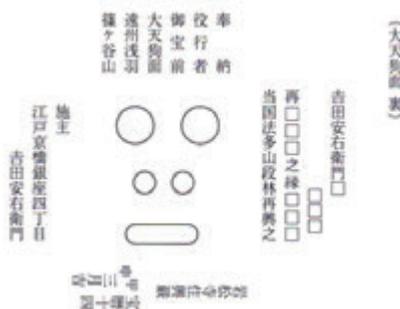


天狗面 (右 大天狗・左 小天狗)

宝暦14年(1764)に江戸銀座四丁目在住の仏師吉田安右衛門によって行者堂に奉納された。彼は宝暦4年に法多山仁王門の仁王像を作成している。



大天狗面裏面の墨書銘



役行者像

修験道の開祖 役行者(えんのぎょうじゃ)像で、江戸中期頃の写実的な優品。像高 78.5 cm

観音堂

観音山山麓に所在する観音堂が一山の本堂となっている。四間四方の宝形造りで正徳3年(1713)に再建されたものである。当初茅葺屋根で壁・柱が朱塗りであったものを、明治34年(1901)に軒を詰めて瓦葺に変更して現状の構造となり、平成22年に屋根と壁面の改修を実施し現在は白木となっている。



観音堂外観



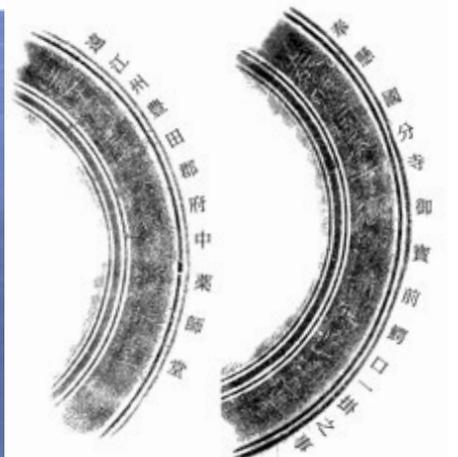
宮殿(くうでん/細部まで建築表現された厨子)
本尊聖観世音菩薩像を納める厨子で、四方入母屋二棟造。
寛文2年(1662)の作成。高さ2.37m・屋根幅2.2m



再建年を示す観音堂棟札 正徳3年(1713)



観音堂に掲げられた「篠谷山」扁額 元禄10年(1697)



静岡県指定文化財 旧遠江国分寺薬師堂 鰐口 直径29.4 cm、重さ5.5 k g

鰐口は寺社仏閣の軒先に懸け、その前に鉦の緒といわれる布縄を垂らし、参詣人がこの緒を打って鳴らし礼拝する鉦。名前の起こりは口が大きく裂けている形を鰐の口に見立てたことから始まる。岩松寺の鰐口は観音堂入口に懸けられていたものだが、もとは源氏延が大永2年(1552)に森町東金谷の鋳物師に造らせ、遠江国分寺薬師堂に奉納したもので、国分寺ゆかりの品として県指定を受けている。岩松寺には観音堂再建時に古物商を通じて持ち込まれたようである。

本末関係と寺の経営

徳川幕府の寺社法度以降、各宗派の独自性と本末関係が明確になる。岩松寺は元禄16年(1703)に真言宗古義派で高野山千手院谷に所在した学侶寺(がくりょじ)の理性院末寺となり明治初期に至る。袋井市内に所在する法多山尊永寺は南谷に所在する学侶寺の釈迦門院末寺、赤尾山長楽寺(洪垂神社)は千手院谷に所在する学侶寺の普門院末寺として、それぞれの寺格に応じて高野山内諸寺と本末関係を結んでいる。



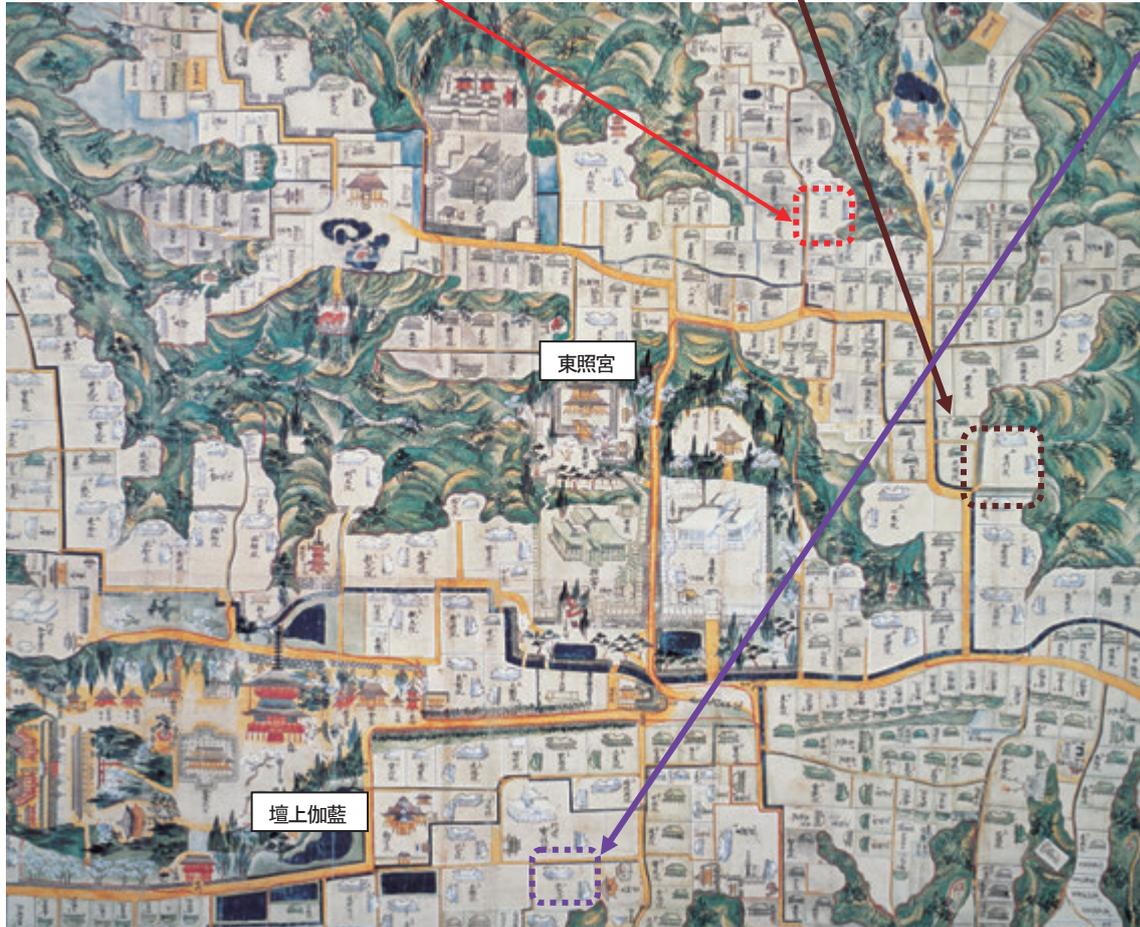
現在の千手院谷(背後の丘陵左が理性院跡)



千手院谷の普門院



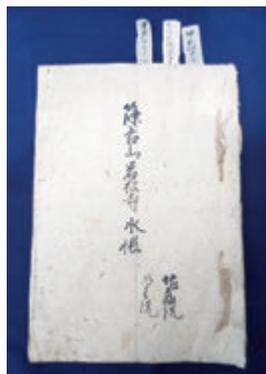
南院谷の釈迦門院



◎宝永3年(1706)高野山壇上寺家絵図(部分) 高野山金剛峯寺蔵 高野山の山上には正保3年(1646)の『高野山絵図元帳』には坊名のある院は全て挙げられ1775軒からなる。内訳は学侶方(学問僧/教学研究・法会の維持)、行人方(山経営の実務、諸堂の管理)、聖方(大師信仰を広め諸国勧進・高野山への納骨・宿坊の提供)の三派と客僧、三昧聖(葬送に関わる)であった。元禄5年(1692)に行われた「元禄聖裁」によって最大勢力であった聖方1400余軒が粛清をうけ、僅か280軒となり山内の再編が行われた。本絵図は寺社奉行に提出した控えである。

岩松寺の寺領

徳川家康が征夷大將軍に任じられた翌、慶長9年(1604)に検地が行われ、「篠谷山岩松寺水帳」という検地帳(土地台帳)が7月に作成された。当時の岩松寺一山を構成する六大坊・智積院・密蔵院・明王院・地藏院それぞれが所有する寺領内の田畑の面積と所有者が確定し経済基盤の整備がおこなわれた。



篠谷山岩松寺水帳

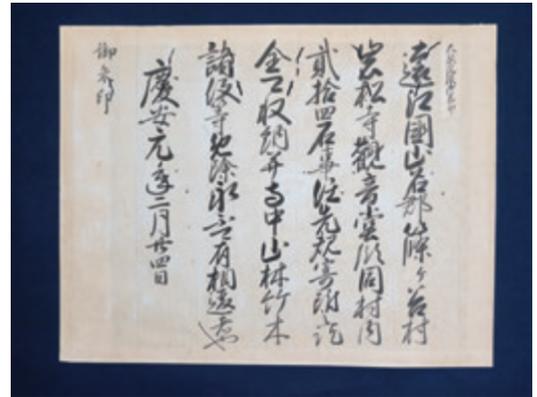


慶長9年(1604)

朱印地

岩松寺は慶安元年(1648)に幕府より観音堂領として24石の朱印地が与えられた。朱印地とは江戸時代に幕府より寺社の領地として承認された土地で、これが祈禱寺院としての岩松寺の経済基盤となっていた。浅羽地区の寺院では岩松寺・円明寺(18石)・松秀寺(12石)の三ヶ寺が朱印地を与えられている。同地区では梅田村の八幡宮社春日明神社領の70石、八幡村八幡宮の35石に次いで多く、寺院では最大規模である。

遠江における同じ真言宗の祈禱寺院では、浜松の鴨江寺が215石と最大で、次いで法多山尊永寺が205石と多く、市内の真言宗寺院では、高野山普門院末の赤尾山長楽寺(現赤尾洪垂神社)が15石、智山派(智積院)の西楽寺が170石(天正18年豊臣秀吉朱印状)、油山寺が47石となっている。



朱印状(写) 慶安元年

年中行事と活動

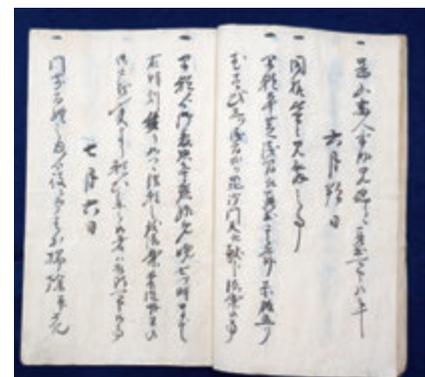
岩松寺の年中行事

岩松寺の年中行事は幕末に書かれた『当山年中行事記』によって詳細に知ることができる。元旦の年神・鎮守白山権現への祀りから始まり、年頭の挨拶、11日の田の打ち初め、2月15日釈迦涅槃会、3月21日正月御影供、4月8日花祭り、6月1日御夢想灸、7月の施餓鬼、11月15日の地の神祭と続き、最後は正月を迎える準備、大晦日まで多くの諸行事が季節ごとに行われていたことがわかる。

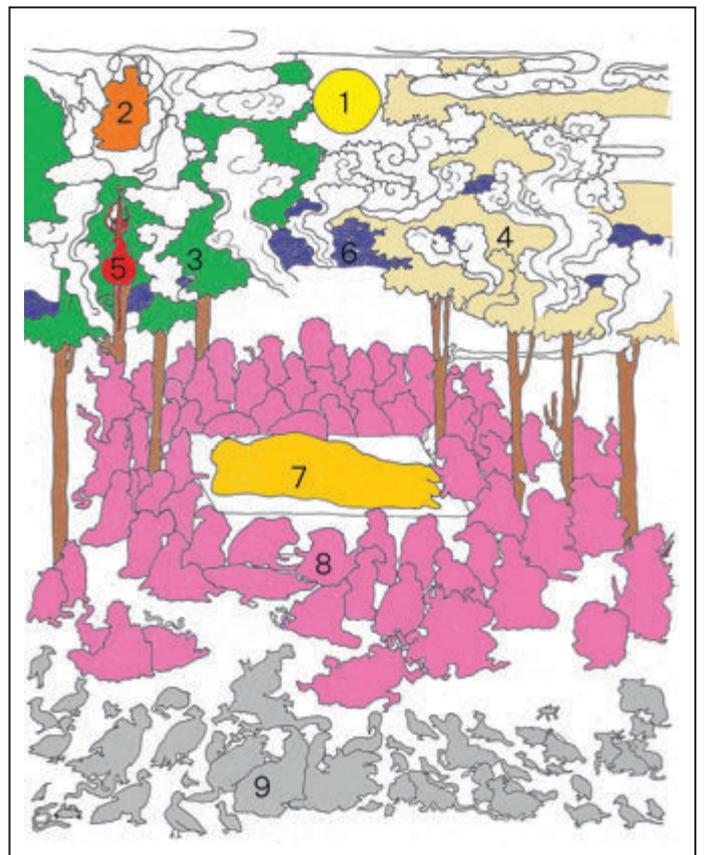
釈迦涅槃図 江戸後期 99.4 cm×127.4 cm

2月15日の釈迦涅槃会に際し掲げて供養を行うもので、当時流布していた涅槃図の基本に従い忠実に描写されている。安政3年(1856)に絵像、箱共に修復。

1. 2月15日の満月
2. 天から降下した母、摩耶夫人
3. 時ならぬ花を咲かせた沙羅双樹
4. 悲しみのあまり枯れて白くなった沙羅双樹
5. 母が葉を届けるも、木に引っかかって届かなかった葉袋
6. クシナガラの熙連河
7. 入滅の釈迦
8. 釈迦を取り巻く菩薩・仏弟子・信者(62)
9. 嘆き悲しむ動物・鳥・昆虫(47)



当山年中行事記



版木

祈禱寺院では多様な護符や祈禱札を発行し、それが貴重な財源でもあった。岩松寺にも札類を刷るための版木が江戸時代のものだけで、18枚残されており、その一部を下に示した。遠江三十三観音霊場巡りに関する本尊 聖観世音菩薩のお姿を彫った享保16年(1731)と元文2年(1737)の在銘の版木、3月21日の弘法大師の命日に行われる正月御影供に出された弘法大師のお姿を彫った版木、篠ヶ谷村鎮守住吉宮の祈禱札も発行しており、住吉宮では神主住浦氏が神職として奉仕し、岩松寺住職が祈禱や祭礼を分担して行っていたようすがわり、興味深い。



聖観音 16.3 cm×22.3 cm



弘法大師 17 cm×16 cm



裏面には「享保六末年十月吉日」の墨書在り



聖観音 21.8 cm×24.1 cm

奉奇進 為六親眷口一世安樂也
生国京都 江戸日本橋南三丁目新右衛門丁
板木師川崎氏源兵衛筆清
右者三十三身并一宇建立勸化之砌於江府
岩松寺現在興嚴
皆元文貳丁巳歲
八月吉祥日

裏面の刻銘

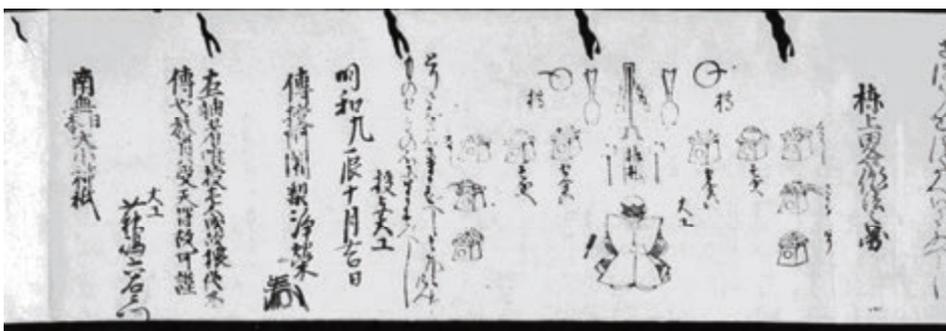


篠ヶ谷村鎮守 住吉宮祈禱札

柳祈禱之蹟 住浦沖之進
住吉大神宮守護所
住吉大神宮守護所
住吉大神宮祈禱御札

大工免除・聖徳太子絵讃の授与

岩松寺の諸活動中最も注目されるのが、大工棟梁に対して免許皆伝の秘伝書を授与し、棟上げ式の次第を口伝により伝授していたことである。さらに、伝授した棟梁に対して大工仲間で作られる「聖徳太子講」の絵讃(掛軸)も発行し授けている。江戸を中心に活躍した遠江・三河出身の大工棟梁たちは、徳川家康が浜松在城の頃から家臣団の一部として組み込まれ、家康が江戸に移される時に、これに従って江戸に移り住み、江戸の街の建設に携わっている。岩松寺はこうした遠江出身で、江戸で活躍した大工棟梁たちと深い繋がりを持ち続け、大工棟梁の権威づけとして秘伝書を伝授するという、仕組みを作り上げていた。



◎『棟上之作法』

明和9年(1772)10月に岩松寺僧 阿闍梨 浄栄により、大工萩嶋六右衛門に対して伝授された 棟上式の次第を記した、秘伝書の巻末部分。

越後国 桑原棟梁

新潟県加茂市の桑原家の先祖に桑原平八という大工棟梁があり、宝暦11年(1761)10月24日に岩松寺住職興嚴から伝授された秘伝書4巻と聖徳太子講の掛軸が残され正月に祀っていた。平八は江戸で活躍し、越後に招かれ移住したという。桑原一門は袋井市長溝発祥。



◎桑原平八への伝授巻物(4巻)



伝来密教深奥之許可・棟上之作法・太子内伝記・印図之次第の四巻が伝授された。



聖徳太子講繪讃(掛軸)版木

享和元年(1801)江戸品川大工門弟中によって岩松寺に寄進されたもの。右の図像は、この版木を刷ったもの。

右端の彩色された聖徳太子繪讃は、筆書きて、桑原家に伝わる平八伝授の宝暦10年(1760)の繪讃を写し作成されたものと考えられる。



◎聖徳太子講繪讃 新潟県十日町市個人蔵

【史・資料から見た篠ヶ谷山岩松寺】

- ・慶長9年(1604) 寺領の検地が行われる
「篠ヶ谷山岩松寺水帳」
- ・慶安元年(1648) 24石の朱印地を受ける 「御朱印状」
- ・寛文年間(1661~1672) 岩松寺焼失記録類の多くが失われる
- ・寛文2年(1662) 本尊宮殿(厨子)新造 「宮殿墨書銘」
- ・元禄10年(1697) 観音堂の扁額「篠ヶ谷山」作成
- ・元禄14年(1701) 岩松寺鎮守 白山宮勧請 「棟札」
- ・元禄16年(1703) 古義真言派高野山理性院末として篠ヶ谷山岩松寺が成立する
- ・正徳3年(1713) 観音堂(本堂)新造 「棟札」
- ・宝暦11年(1761) 桑原平八に大工免除授与 「免状」
- ・宝暦14年(1764) 行者堂に天狗面奉納される 「天狗面」
- ・明和9年(1772) 萩島六右衛門に大工免除授与 「免状」
- ・安永3年(1774) 客殿造立 「棟札」
- ・享和元年(1801) 江戸品川大工門弟中より聖徳太子画像の版木が奉納される 「版木」
- ・文化2年(1805) 岩松寺鎮守 白山宮修覆 「棟札」
- ・慶応3年(1867) 行者堂再建 「棟札」

本書は篠ヶ谷山岩松寺本尊 聖観世音菩薩像の60年に一度の御開帳に併せて開催する歴史文化館平成26年度 春期特別展「岩松寺の歴史と文化」の解説書として作成した。キャプションの◎は写真展示のものである。
編集発行 袋井市歴史文化館 〒437-1192 静岡県袋井市浅名1028(浅羽支所内) ☎ 0538-23-9269
ホームページ <http://www.fukuroi-rekishi.com>